



在京古高同窓会会報 第23号

〒150-0043 東京都渋谷区道玄坂1-15-3 プリメーラ道玄坂110号 信陵会館内 在京古高同窓会事務局 電話 (03) 3462-1225 FAX (03) 5489-1358 発行責任: 佐藤 法夫 編集責任: 萩沢 孝夫 編集長: 千坂 孝夫 印刷: (株)ケーヨー



挨拶

会長 伊藤 宗一郎

会員の皆さん、お元気で過ごしてはいかがでしょうか、暑中お見舞いを申し上げます。

日頃は、同窓会活動に色々、ご協力を頂き、ありがとうございます。

さて、一月上野精養軒での古川市内四校の合同新年会には、三百名弱の出席を得て、盛会裡に終了することが出来ましたこと皆様に感謝を申し上げます。

また、三月には、昨年に引き続き三名の卒業生に『東京堂雪賞』を贈呈いたしました。

受賞は、運動部(スキー部)で活躍した高橋拓史君、文化部(将棋部)で活躍の新田司君、生徒会活動ならびに応援リーダーとして頑張り通した梁川保君の三君でした。

更にまた、四月には、母校古川高校の学校長の異動がありました。高橋健三前校長の後を継いで母校の発展と改革に、ご尽力下

さった久保田齋学校長が、ご出身の石巻高校に転任されました。在任中のご苦勞に感謝の意を表したいと存じます。新しい学校長には、同窓生(昭和三十五年卒)の大沼康哉氏が佐沼高校より赴任されました。今後の活躍をご期待致します。

来る七月には、一昨年、昨年と同じ会場の『神楽坂エミール』で平成十一年度の定時総会・講演会懇親会を開催致します。会場は、地下鉄東西線神楽坂駅下車すぐの処です。会員の皆様には是非ご出席下さいますようお願い致します。

なお、当日の記念講演は、地球の環境問題に真摯に取り組んで居られ、只今、多方面でご活躍中の同窓生、渡辺三男氏(昭和十八年卒本同窓会幹事)に、お願いをしておりますのでご期待を頂きたいと存じます。

今後とも、会員相互の親睦を深め合い、支え合いながら、本会へのご理解、ご支援、ご協力を、切にお願いを申し上げます。

終わりに、皆様のご健康と更なる発展を衷心よりお祈り申し上げます。

在京同窓会メモ

- 信陵会館は井の頭線渋谷駅線路沿いです。
会計年度は6-5月、年会費は一口2000円、何口かお願ひできればありがたい存じます。
会運営のため、同封の振替用紙での納入をお願い致します。
次回会報第24号は1月1日発行予定。原稿、広告は常時受付、事務局まで送付下さい。

ご挨拶

学校長 大沼 康哉 (高十二回卒)



風薫る好季を迎えましたが、在京古高同窓会の皆様におかれましては、益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

この春の人事異動により、母校勤務を命じられました。教員として母校に勤務できますことは、この上ない喜びですが、同時に大変な責任を背負うことになり、胸中複雑なものがあります。もともと浅学非才であり、非力そのものであります。母校のため精一杯頑

張すので、ご支援をお願い申し上げます。

鈴懸、樺、銀杏、柳等の緑に囲まれた校庭からは、今日も生徒達の元気な声が響いています。時々北門の方からカンカンという踏切の音が聞こえ、陸羽東線を汽車が通過していき

ます。校舎の配置や建物はすっかり変わってしまいましたが、今も昔のように時はゆったりと流れています。つい先日までは、対築高定期戦や地区総体を前にして、なつかしい校歌や応援歌を練習する声が学校中に響いていました。今は、県総体

に汗を流しています。 このように学校の雰囲気も、毎年のリズムもさほど変わったようには見えませんが、時代の変化には、非常に厳しいものがあります。人口の仙台一極集中、少子化に伴って郡部に押し寄せる過疎の波、必死になって生徒を集めようとする私立学校の攻勢の中で、郡部の高校は、その存続すら脅かされ、学級減が続いています。本校も決して例外ではなく、本年度の入学生

から一学級減って、一学年七学級になりました。学級減の問題だけでなく、古高をとりまく状況は厳しさを増しています。堂雪賞を掲げ、常に県内の高等学校の先頭に立ってきた本校が、文武両道に亘って後退していることは、とても残念なことで、大きな転換期を迎えていることを実感しています。

本校百周年の歴史の中には、このような苦難の時代が何度もありました。そんな時代を立派に乗り越え、輝かしい伝統を築いてこられた諸先輩の期待に応えられよう、職員、生徒力を合わせて精進してまいりたいと思えます。皆様のご指導をお願い申し上げます。

校歌や応援歌に歌われている鳴瀬川や荒雄川が今日も大海に向かって流れ続けているように、古高も百余年の歴史を刻みながら、毎年優秀な人材を世に送り続けています。どうか後輩のご指導をお願いいたします。最後になりましたが、古高は皆様の学校です。何時でも気軽にいらしてください。在学当時の思い出や各地の様子など伺えれば幸甚です。在京同窓会ならびに同窓の皆様のご活躍とご発展をお祈り申し上げます。

お知らせ
平成11年度在京古高同窓会定時総会
・日 時: 平成11年7月25日(日) 14:00~17:30
・会 場: 神楽坂"エミール"
・会 費: 8,000円
・講演講師: 渡辺三男氏(昭和18年卒)
・演 題: 「ここまでの地球環境の危機」
・交通案内: 地下鉄東西線 神楽坂駅 徒歩2分
有楽町線 飯田橋駅 徒歩13分
JR中央線 飯田橋駅 徒歩13分
神楽坂 エミール
財団法人 東京都福利厚生事業団
〒162 東京都新宿区赤城元町1-3
エミール TEL 03-3260-3251
総会案内は別紙です。(事業委員会)

渡辺三男氏プロフィール
大正15年 旧高倉村(現三本木町)生まれ
昭和18年 旧制古川中学卒
昭和20年 福島経済専門学校(現福島大学経済学部)卒業
昭和36年 税理士登録
昭和43年 フジ会計事務所開業
創立30年を迎える。現在は後継者に事業を託し、会長就任
その間、東北城北ライオンズクラブ会長や会計人グループの全国組織「エッサム・ファミリー会」副会長、関東会会長として活動
現在は、各環境NGOに加入し、「美しい地球を子供たちのために」をライフワークとして環境保全活動に参加中。

母校の今

進路状況報告

進路指導部

今春の大学合格状況を見ると、昨年比で現役合格者数が若干少なくなっている。これは、今年の卒業生が入学時点で大きく定員割れし、定員三二〇名に対し卒業生が二七八名と、約一クラス分少なかったことが大きく影響している。昨今の少子化傾向はここ大崎の地でも著しく、古高も学級減を余儀なくされるほどになっている。一方で、学卒者の就職難を反映してか、卒業後直ちに就職する者が増えてきている。昨年までは七〜八名であったのが、今年卒業生は、就職を希望する者が二〇名近くになっている。

浪人生の合格者数は大きく減少している。これは全国的な傾向であるが、昨年度卒業生の浪人数がそれまでの約2/3と少なかったことによるものである。

ほとんどの生徒が大学進学を希望していた頃比べ、多様な進路希望を持った生徒が入学してきているのが実体である。これらの生徒の進路希望達成に力を注ぐことはもちろんのことであるが、特

に、長い間本校が担ってきた役割、また、地域や保護者の期待を考えた場合、進学を希望している多くの生徒が志望する大学に合格し、飛躍していく学校づくりの努力を続けていく責任を痛感している。今、学校は、通年の課外、夏休み学習合宿、進路ガイダンス等、進路指導体制を強化しているところである。

今後とも、ご指導ご支援をよろしくお願いしたい。

卓球部の活動状況

卓球部顧問

佐々木 恵 (高37回)

校歌・応援歌練習とともに、また一つ春が巡って参りました。昨春、百周年記念として新設された第二体育館(卓球場)に初めて足を運んだ日の感慨が忘れられません。もちろん十数年前、私が過ごしたあの古い卓球場が無くなってしまったことに対する感傷がないわけではありません。あの、世界選手権出場の角田先輩など、幾多の名選手を育み、諸先輩の汗と歓喜と苦悩、すなわち青春のすべてが詰まったあの卓球場。でも、それ以上に、私

の中には、これからこの県内随一の真新しい施設で活動ができて感謝と期待の思いが広がっていました。「草の戸も住みかわる代ぞ難の家」(芭蕉)

「闘う集団づくり。」多少時代錯誤でもあるし、卓球という競技に不似合とも言えるこの合言葉で、現在日々の活動に取り組んでいます。一人一人の天才がいなく

とも、我が古高は「総合力」で勝てる。そう信じております。選手達も彼らなりに精一杯励み、昨秋の新人県大会で久しぶりの第三位入賞、今年度に入ってから築高定期戦で快勝し、地区総体でも団体・個人とも優勝、まずまずの状態で県総体を迎えることができそうです。

今後、諸先輩方の築いてこられた伝統の中で活動できること、さらにはそれに現在の選手達独自の新たな彩りを添えられることへの、限らない幸福と感謝と誇りを彼らに抱き継承させながら、さらに前進して参る所存です。今後とも応援宜しくお願い致します。

柿落とし公演成功の内に幕

演劇部顧問

伊東 俊

小雨に煙る五月十六日午前十時。凌雲文化センターで行なわれた古川市内高校演劇祭合同公演は立錐の余地がないほどの人々に観客席が埋まり、その熱気を自らのエネルギーとし、出演者全員一丸となってパワフルな舞台を創造し得た。新装なったセンター二階の空間は、袖幕・暗幕も真新しく、役者の情熱が客に直に伝わる小劇場風の広さであり、まさに柿落としにふさわしい場所であった。芝居が跳ねた後のカーテンコールも再三にわたって大きな拍手とどよめきに包まれ、生徒全員演じることと・ドラマを作り上げることに至福に酔ったひとときであった。今後共部員一同この文化セン

ターを拠点として稽古にはげむことを誓って「幕」となったのである。

市内高校演劇部の皆さん



勝利輝き意気高し

生徒会長 楡井 通浩

“我等の夢は、古高の…”

千古の秀峰栗駒に天高く古高凱歌が響き渡り、猛者の如く戦い抜いた我等古高生一千名は、その瞬間紫の蛍と雪の中に代々先輩方から受け継がれてきた古高魂を感じました。

四月二十八日、大地を揺るがす両雄大決戦として、記念すべき第四十回対築館高校との定期戦は、新種目である綱引きで幕

を開けました。この綱引きは、今までの定期戦で種目のなかった運動部や文化部員も選手として参加するという両校共通の意見を実現したものです。そして単なる行事ではなく全校一丸となつての伝統の一戦であることを再認識することができました。綱引きは惜しくも初陣を白星で飾ることはできなかったが、その後各部奮闘し、敵地築高で七対二の大勝利を収めることができました。定期戦圧勝の陰には、応援団の復活という大きなはじめを自分達の手で付けた自信によるものです。私達が入学した頃、すでに応援団幹部の活動は休止していました。私達は、このままでは古高の伝統や古高生としての自覚と誇りに触れることなく過ごしてしまうのではないかと、名門古高の名にかけて再度大崎大学と謳われるよう努力することを決意しました。古高生の今後はますます上昇を続けます。これから県総体インターハイ、夏の甲子園と大会は続きますので、どうか私達の今後の活躍にご期待下さい。

宮城県古川高等学校ここにあり。



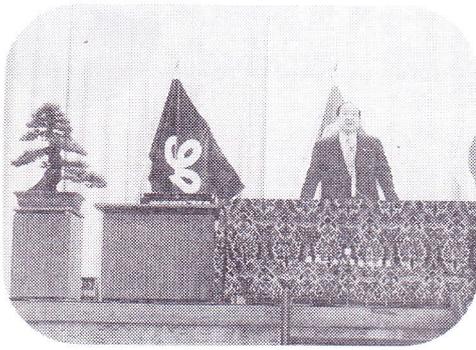
定期戦で挨拶する生徒会長

宮城県古川高等学校進路資料				
・合格者数 (平成11年4月現在 進路指導部)				
		現役	過卒	合計
国公立大学		15	13	28
国公立短大		5	1	6
私立大学		135	186	321
私立短大		1	0	1
文部省所管外		1	0	1
合 計	1999 平11	173	200	357
	1998 平10	175	243	418
	1997 平 9	206	302	508
	1996 平 8	226	278	504
	1995 平 7	139	284	423

・現役生進路状況	
卒業生	278名
大学進学者数	113名
受験準備	102名
専門学校・就職・その他	63名

東京 螢 雪 賞

古川高校在京同窓会
平成10年度 生徒会活動顕彰者



螢雪賞受賞の様子



螢雪賞受賞の3君：左から新田、梁川、高橋君

推薦項目	運動部 (スキー部・大回転)
推薦生徒	3年4組 高橋 拓史 (鳴子中学校出身)
推薦理由	<p>高校入学時よりスキー部に所属し、アルペン競技(回転・大回転)を種目として選び、3年間熱心に活動した。中学在学時から各種県内大会で活躍し有望視されていた。本校に入学し、季節を問わず熱心に活動し、大きくその力を伸ばした。また、強化指定選手に選ばれ、県代表の中心選手としておおいに活躍した。</p> <p>□数少なく穏やかな人柄であり、基本的な生活習慣がしっかりしており、堅実に生活している。学習面においても、大学進学という目標を掲げ、大会遠征中においても多くの時間を割き、努力している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成9年度 インターハイ出場、国体出場、東北大会出場、強化指定選手 ・平成10年度 インターハイ出場、国体選手、強化指定選手

推薦項目	文化部 (将棋部)
推薦生徒	3年3組 新田 司 (岩山山中学校出身)
推薦理由	<p>3年間将棋部に所属し、その才能を存分に発揮した。</p> <p>1・2・3年次と県高校将棋選手権大会に出場し活躍した。特に3年次には県代表として全国大会に出場、団体戦、1回戦で破れたものの唯一勝利し、将としてチームを引っ張った。</p> <p>温和で誠実な人柄、責任感があり何事も確実にこなし、他の模範である。学習面においても常に高い目標を掲げ、寸暇を惜しんで勉強に励んでいる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成10年度 全国高等学校将棋選手権大会出場

推薦項目	生徒会活動 (総務・応援リーダー)
推薦生徒	3年8組 梁川 保 (小牛田中学校出身)
推薦理由	<p>テニス部に所属しながら2年次より生徒会執行部に所属し、応援関係の仕事を一手に引き受け古高の活性化に尽力した。特に、築館高校との定期戦にむけ事前の応援練習を指揮し、当日は応援リーダー、テニスの試合と古高の志気を高めようと力一杯頑張った。</p> <p>明朗快活、誠実な人柄、また、誰とでもわけ隔てなく付き合い級友はもとより全生徒、職員から信頼されている。学習面においても大学進学を目標に掲げ日夜努力し、東北大学医療短期大学に合格した。</p>

東京 螢 雪 賞 を 受 賞 し て

スキー部 高橋 拓史

旧三年八組 梁川 保

卒業に際し、東京螢雪賞をいただき有難うございました。

私は古川高校入学と同時にスキー部に入学し、三年間文武両道を目指して頑張ってきました。二年次三年次と連続して、インターハイ、国体に宮城県代表として出場することが出来ました。残念ながら全国大会で上位進出はなりませんでしたが、大会本番はもちろんですが、日常のトレーニング、そして、代表選手の強化合宿などを通してさまざまな事を学んできました。

第一に、古高スキー部員、そして他校のスキー部員との触れ合い、そして競い合いを通して自分を高めることが出来たと思っています。第二に、多くの方々の支えがあって全国大会に出場することが出来たことに対する感謝の気持ちです。スキー部の活動を通して、技術的、体力的な面での向上以上にさまざまな人々と触れ合えた事が自分の人生の財産になったと思っています。

大きな経験をさせていただいたうえで、栄ある賞を戴き、身に余る光栄だと思っております。受賞を励みとし、将来の目標実現のためさらに努力を重ねていきたいと思っております。同時に後輩諸君の益々の活躍を期待し、受賞の御礼とさせていただきます。



この度は、東京螢雪賞という名誉ある賞をいただき有り難うございました。私は今、東北大学医療技術短期大学部に入学し、立派な放射線技師を目指し勉強に励んでいます。新しい環境は何もかもが新鮮で友達もできて、毎日充実した学生生活を送っています。

さて、そのような自分があるのも、古川高校での三年間があったからだと思います。振り返れば、二つの思い出が強く心に残っています。一つは、夜遅くまで仲間達と汗を流したソフトテニス、もう一つは、私が応援リーダーとなって皆で一丸となり戦い勝利した定期戦、この二つの経験は、とても自信になり私をより一層成長させました。しかし、どちらも私一人の力で成功したわけではありません。多くの人達の協力があったからだと思います。そこで仲間の大切さを痛感しました。今でも、先生方や友達、後輩達に感謝の気持ちで一杯です。私は、これまでの経験を生かし、大学で学び、将来は全ての患者さんに暖かい心で接することの出来る医療従事者になりたいと思います。

最後に、愛すべき後輩達に一言。無理をしろ。無理をして多くの人と接して、多くの経験を積み。そして人を好きになれ。あんたはまだまだ若いでしょ。限界ギリギリで生きる。がんばれ、負けんな。

同窓会だより



古高同窓会長 野村 喜太郎

左京古高同窓会の皆様にはお元気で夫々の分野に於て活躍のこととお喜び申し上げます。母校古高は早くも創立一〇二年を迎え文化活動拠点「凌雲」の入口に掲げられた「不撓不屈」の額(伊藤宗一郎衆議院議長揮毫)を仰ぎ日々勉学に部活に励んで居ります。

六月十一日学校行事として古高昭四十二年卒田尻町出身の江村功氏がリーダー、指揮をつとめる東京ジャズギルドオーケストラを招き古川市民会館で演奏会を開催、江村氏は母校への思いを込めてエネルギーを爆発させ生徒に感動を与えてくれ、夜は同窓会後援の特別公演をしていただき、大崎の音楽の質を高めていただきました。

同窓会の事業の一つに奨学会があり予算十八万円で、学業成績、人物優秀の生徒一学年一人に一ヶ月五千円の奨学金を贈って居ります。卒業時には東京蛍雪賞もあり、どんなにか生徒の励みになって居ることと思います。奨学生一人一人の個人の名前は記憶してませんが各支部の総会等に出席の折り会員から「家の息子奨学金をいただきさおかげ様でした」と

御礼の言葉をいただくことがあり、その都度同窓会の有難味を感じて居ります。一方少子の影響で古高も一学級減となり同窓会の準会員がその分少なく同窓会費も減となり年間予算が窮屈になります。必要な事業は続けて参ります。受験シーズン、高校総体時等節折々に進学率或いは成績等一喜一憂し年々向上することを願っているのは同窓生ならではないと思いません。

今後共よろしくお願い致し伊藤宗一郎会長さんを中心に貴会の益々のご発展をお祈り申し上げます。

学校長のプロフィール

本年四月より本校に赴任された大沼康哉校長の紹介をさせていただきます。

校長先生は、昭和三十二年四月本校に入学し、同三十五年三月に高校十二回生として卒業された同窓生であります。

東京で生まれてすぐに鳴子町に転居。本校卒業後、東北大学教育部に進学し、昭和三十九年に教職の道に就かれました。県北の高校を中心に生物の教員として教鞭を執られ、古川女子高在職後、気仙沼養護学校、石巻市立女子高の教頭を歴任され、その後校長に昇任。女川高校、佐沼高校の校長を経られてこの四月に母校の校長として着任されました。

「自分の考えを堂々と主張する古高生の姿と出会い、若々しい感性を感じた。一人ひとりの長所をうまく伸ばしてやれば、自分の個性をしっかりと発揮できる人間になるはず。」と抱負を述べておられます。

(文責 教頭 大 悦夫)

紹介

平成9年11月6日
宮城県古川高等学校百周年記念講演

国際人たる自覚



創立百周年記念事業 完成した「凌雲文化センター」

松本 慶蔵氏

(本誌は今年度の新入生から毎年配布)

第一章 戦中・戦後の古中生の苦難と克服

- 一、海軍兵学校生徒として
- 二、高野校長のこと
- 三、自立勉強会の発足
- 四、いま思うこと

- 第二章 古き良き時代のエピソード
吉野信次先輩をめぐって
- 第三章 立花隆と武満徹
感性を高めるといふこと
- 第四章 国際人たる自覚
一、熱帯医学に携って
エチオピアとウガンダにて

二、域文化圏を考えるーイスラム文化について

三、AIDSから世界を思う
四、自己を確立することから
さて本講演の終章に入りたいのであります。国際人である必要性は十分おわかりいただけだと思います。しかし古高生諸君に国際人たる自覚を説くゆえんをその説明をしたのであります。国際人として最も大切な基礎は、自分のidentificationすなわち自己を最も良く知り、自己を確立することから始まるのです。外国の人達は自らの国の歴史も知らず、自分の国を侮蔑する人物を決して尊敬はし

ないのです。国に欠点ありすればその修正の意欲と哲学が要求されるのです。

私達の世代は戦中、戦後の混乱期を過ごしてきたことが、私達に隠された能力に気づかせたのかも知れません。しかし諸君は平和な時代に育ち、自分の本質を見出すのに困難な状況なのかもしれませぬ。しかしそれは日本の高校生の共通の状況であります。それには自己を見つめなおし自己革新を図ることが自己の確立であり、美しい友情のもとに切磋琢磨すべきなのです。

私は内科医であると共に医学生物学者でもあります。特に病原微生物を研究してきましたので、私達のもつ遺伝子の多様性をよく知っています。私達は決して勝手に生まれてきたわけではなく、先祖から受け継いできたものです。その内なる遺伝子はいかなる多様性を持っているかまでは、すべての人間に明示していません。それは刺激による反応でしか生じ得ないのであります。意欲の発揚はまさに脳の活動であります。自分の(想)できないような脳細胞が活

動し始め、それが感性の活動すなわち感動によって、さらにこれまでの非活動の脳細胞も活性化し、お互いに連携して諸君の能力を開花していくのです。

今こそその時期であり、今をおいてないことを十分認識してほしいのです。

私達の世代は終戦の前後をはさみ、困窮の日本から今日の繁栄する日本を見てまいりました。この急激な科学と経済の発展による生活の激変はまさしく諸君の祖父母や父母の方々の実感するものでありましょう。

私はこの間にあって自分の人生は、先ず第一に自分が努力して作る人生であって、家や家系や財産ではないといふ峻厳な事実を感じてきたのであります。

私は最後に幕末の佐藤一斉先生の言志録第十九条の「頭は冷ならん事を欲し、背は暖ならん事を欲し、胸は虚ならんことを欲し、腹は実ならんことを欲す」といふ文言を諸君に送りたいと思います。頭は当然、顔も頭脳も含まれ冷静な判断の必要なるを説き、背には暖かな心根、やさしさ、友情を持ち、胸は虚心坦懐であれとし、お腹にはずしんとした不動の精神を持ち信義に込えよということでありませぬ。

どうか古高生諸君、古高百周年の記念の年にあう慶事に、高き志を立て、真剣に一日一日を感動の中に送り、真の国際人として、またはその地域の人として、または地の塩として、畏敬される人物になられるように熱望するものであります。

(一部抜粋掲載)

古川市内四校合同新年会報告

第6回目を迎えた今回は、1月31日上野精養軒において、257名の出席（本会は97名）のもと、盛大に開かれました。

古川からは久保田校長、野村同窓会長はじめ、在仙同窓会の方も含め多数おいでいただきました。

ここに当日のスナップ写真と共に、「しらうめ関東支部だよ」報告を転載いたします。

盛会だった 第6回新年の集い

今年1月31日（日）に上野精養軒で行われた古川市内四校「新年の集い」は257名の出席がありました。（内71名は古女同窓生）元プロ野球選手の柴田勲氏の講演、物産展等が行われ、盛会のうちに終わりました。

来年の「新年の集い」は平成12年1月30日（日）、今年と同じ《上野精養軒》で開かれる予定です。どうぞお楽しみに！！



物産展を手伝って

新16回生（39年卒）

鈴木 ナカ子



新年会のお楽しみコーナーである物産展は私達、16回生と今年から13回生の方々と協力して手伝うことになりました。

昨年から古川商業の方々を中心に独自に仕入れ、販売をしております。昨年は何を販売すれば皆さんに喜んでいただけるか？仕入れの数量は？又、販売し始めてすぐ売り切れてしまう物、残りそうな物等初めての経験で大変でした。

今年は、前年の事を考慮にだいたい良い状態になり今後につながる実感ができました。

ずんだ餅、凍み豆腐、しそ巻き、漬物等毎年楽しみに喜んでいただいていた人達のお顔を拝見でき、とてもうれしく思っております。今後ますます充実し恒例になり、続いていくことを願っております。



講師の柴田勲氏（右）と紹介の伊藤氏



司会のお二人

司会を手伝って

新19回生（42年卒） 高橋 典子

6回目を迎えた合同同窓会「新年の集い」で去年に続いて二部（懇親会）の司会をさせていただく。いつも元気一杯の古川商業の浅野先輩と一緒に進行する。名前をまちがえないように、時間はどうかなど気にしながらも無事終了。

日を改めての反省会もそれぞれの立場でのエピソードも聞くことができ、楽しいひとときでした。

古川市内4校新年の集い 出席者一覽

(来賓)

久保田 斉（学校長） 野村 喜太郎（同窓会会長） 佐藤 彰（同窓会事務局長）
小堺 邦彦（在仙古高同窓会事務局長） 佐藤 吉昭（古川東京事務所長）

(会員)

- | | | | | | | |
|------------------------------------|------------------|------------------|------------------|------------------|------------------|------------------|
| 昭和55年卒：
永沢 昭七 | 前田浩五郎
森谷 侑一 | 昭和27年卒：
氏家 明朗 | 金原 章郎 | 昭和31年卒：
生亀 功男 | 堀淵 宜男 | 昭和41年卒：
高橋 秀之 |
| 昭和59年卒：
伊藤 守治
多藤 省徳 | 昭和22年卒：
諸岡 久男 | 今野 健勝 | 齊藤 満夫 | 石堂十六男 | 昭和35年卒：
佐々木武磨 | 昭和42年卒：
船島 敏夫 |
| 昭和15年卒：
小山 豊 | 昭和23年卒：
佐藤 浩朗 | 佐藤 正剛 | 佐藤 廣 | 長井 弘策 | 昭和36年卒：
菅野 俊次 | 昭和44年卒：
伊澤 正雄 |
| 昭和17年卒：
高橋 淳夫 | 昭和24年卒：
我孫子静夫 | 高橋喜三夫 | 福富 啓祐 | 萩沢 法雄 | 佐藤 文彦 | 高橋 修一 |
| 昭和18年卒：
大家 吉夫
佐藤 幸雄 | 門脇 健 | 中森 高 | 三浦 憲一 | 益子 剛 | 昭和37年卒：
千坂 孝夫 | 昭和45年卒：
畠山 英洋 |
| 昭和19年卒：
加藤 弘 | 昭和25年卒：
鈴木一太郎 | 春田 紘輔 | 湯本 良師 | 大坂 靖 | 昭和38年卒：
安倍五十六 | 昭和47年卒：
福田 正男 |
| 昭和20年卒：
熊谷 虎夫
佐々木一司
高橋 昭典 | 遠山 仁一 | 三嶋 純一 | 昭和30年卒：
尾崎 彦彦 | 草刈 次美 | 高橋 忠世 | 昭和51年卒：
佐々木強悦 |
| | 昭和26年卒：
遠藤 惇 | 悦 康 | 門脇敏明 | 佐藤 公哉 | 渡辺 将郎 | 菅原 博之 |
| | 佐々木國利 | 小元 広 | 門脇喜代志 | 佐藤 満行 | 昭和39年卒：
上野 正司 | 細川 源治 |
| | 鈴木 桂吾 | 金子 慎一 | 岸 康男 | 沼倉 和雄 | 昭和40年卒：
浅野 仁也 | 昭和55年卒：
佐々木三男 |
| | 角田 啓輔 | 高橋 道雄 | 佐藤 寿哉 | 渡辺 光夫 | 古内 晋典 | 佐々木彰二 |
| | | 昭和29年卒：
岩渕 瑞穂 | 佐藤 久 | 佐々木光一路 | 佐藤 俊善 | 佐藤 浩 |
| | | 尾梶 健寿 | 二階堂幸男 | 後藤 孝 | | |
| | | 菊池 務 | 平野 武 | 穴戸 志智 | | |
| | | | 渡辺 吉郎 | | | |

(敬称略)

会員による 自由投稿欄

高春先生の思い出

23年卒 佐藤 浩朗
(沼津市在)

一年、二年生時の「幾何」、今でいう「解析・図形」を専門に教えていた高橋春明先生にまつわる戦時下風流たんです。

図形の定理証明で、「逆も真なり」の公式でしたが、解りやすく置きかえて、「英雄は色を好む」だけと反対に「色を好むものは英雄だけではない」と説明しました。

二年生の二学期に農家に勤労奉仕に行き、暗くなつてから学校で解放になり、古川の方言で「明日、左様なら」と生徒は家路につきました。三人の生徒(本人の末代の名譽のため、名は伏せます)がA君、B君、C君の三人は、時に秋ですが、春の訪れの目覚めが早かつたのでしよう。当時三日町の緒絶橋のたもとに津の国やさんという菓子屋の老舗があり、この家に高女三年の美人の生徒がいました。どういう相談であつたのか、衆議一決、やんちゃな少年達はその店に押しかけ、店が閉じてありましたので表のガラス戸をドンドンたたいたのです。

たわいない少年の悪ふざけでしたが、次の日津の国やさんから、学校に注進があり、すぐさま父兄同道の上、校長室と相成つたのです。時の校長は学者肌の高野正見先生(奈良女高師から転任になり、中国文学の金瓶梅の訳書の著作のある先生)です。校長室に組主任立会いの上、引き立てられま

した。担任の相原先生は東京高師水泳部観海流免許皆伝で、晩年に小田原城東高の高校長を務め、当時文部大臣天野貞祐氏と高校教育の双璧と称され、全国高校長会の会長を務めました。

先年たまたま相原校長の下で教師をしていた方で、現在は小田原在住で「味香町」を代表作とする作家の川崎長太郎の菩提寺無量寺住職に伺つた話に依りますと、相原先生は厚木の旧家の出身で戦争末期外地の司政官として赴任し、その後引揚げて、戦後の農地改革で土地は全部手放したそうです。長男の方は我が校四十二回の卒業で、旧制浦和高、東大を卒業、東洋大学の教授をなさっています。

校長の前で三人の生徒はそれぞれそはねつきピッキの様に平謝りに謝り、校長から「我が国の興亡を賭け先輩は北や南で戦っているのに、銃後の後輩が万葉の桜の花の色ならぬ桃色に染まつてなんたることだ」と校長訓戒で油をしぼられ、当時の校訓から罪一等を減じられ無罪放免になりました。

たまたまその日は私達は奉安殿の北側の教室でしたが、幾何の時間があつた。先生から「今、校長室にいる生徒はなんで呼ばれているか知っているか?」そこで冒頭の「逆も真なり」定理の説明で、色を好むものは英雄ではないと引用したのです。

その当時そういう定理もあるのだなあと考えました。それによると自分も英雄ではないと自問自答することがあります。

二九会 (ふくのかい)

佐藤 廣 (29年卒)

一月三十一日新年会終了後昨年と同じく西日暮里の「魚民」に十七名が集まつた。

当日は風邪のため急遽六名も欠席者がでて、こじんまりとした会になってしまいましたが、新年会に来賓で出席されていた佐藤彰事務局長を始め、古女の四人の美女の参加を得て、賑やかに和やかな会となりました。

遠方から金原章郎、湯本良師の両君が参加、特に湯本君は、リタイヤ後に始めたという陶芸で、木の灰で造つた「くい呑み」を持参。来年の参加者全員に差し上げたいと約された。すばらしいものなので期待して頂きたい。また当日欠席だった氏家利夫君からは金一封を寄贈頂いた。二次会はカラオケで夜の更けるのも忘れ、楽しい夜を過ごし、元気に来年も再会することを期し散会した。



三期会 同期会報告

萩沢 法雄 (31年卒)

古高三十一年卒の同期会を去る四月三日(土) ホテルニュー神田で開催しました。関東一円にいる同級生約七〇名に案内状を発送しました。出席者は二〇名。返信用ハガキで欠席が二十六名、音信無しが二十四名でした。一年ぶりに元気な姿を見、近況など賑やかに語り合い、楽しい一時を過ごしました。十二時より始まり、二次会が終了したのは四時三〇分でした。名残残きず、三次会まで延長しましたが、時間切れで再会を期し散会しました。

来年も又、三月頃を予定しています。多数の参加を心よりお待ちしております。致して居ります。

古九会盛大に開かる

佐藤 公哉 (32年卒)

まず、六〇歳の年に残念ながらこの世を逝られた加藤謙助君、朝比奈泰君、加藤昭七君、お三人のご冥福を心からお祈り致します。

古九会(古高三十二年、第九回卒)が昨年十月二十五日、十二時より上野精養軒で行われた。早々と準備会が持たれ、名簿作成から準備が始まったが在関東居住者八十五名中、返信が三十八名、もどりが二通、うち出席者が十七名であつた。

「還暦」ということもあって、三十二年ぶりで参加したのが大内邦夫君と相沢賢郎君、不定期に総会や新年会の時にやっていた同期会も今回はすばらしい会員のスピーチで盛り上がりを見せ、カラオケでなお興をそえた。常時、同期会

に顔を出している人二十五名、ちなみに年会費を納めている人三十一名。今年の「古九会」ますます出席者の多からんことを祈る。



○後列右から ○前列右から

- 佐々木勝也君 野田 利美君
- 高梨 利通君 佐藤 満行君
- 高橋清七郎君 佐藤 公哉君
- 阿部 功二君 相沢 賢郎君
- 三神 良雄君 相沢 菊男君
- 大内 邦夫君 長沼 三郎君
- 川口 勝 君 沼倉 和雄君
- 若井 徹夫君
- 犬飼 靖光君
- 大坂 靖 君

暑中お見舞

申し上げます

暑中お見舞い申し上げます。昨今の激変する社会情勢の中で、先ず健康第一にして、苦難の坂を共に乗り越えましょう。

昭9卒 伊藤 守治

このほど建国大学資料を国会図書館東洋文庫に寄贈した。ありのままを伝えたいとの同窓会の熱い願いで、三年がかりだった。

昭17卒 高橋 淳夫

一月末、環境都市ドイツのフライブルグ市訪問・・・百聞は一見にしかず。七月中国に植樹活動に旅立つ。

昭18卒 渡辺 三男

暑中お見舞い申し上げます。宮城県角田市に精神はく弱児施設社会福祉法人恵秋会「はぐくみ学園」あり。依頼され学園歌「はぐくみ音頭」を作詞・佐藤公哉(三十二年卒)、作曲・鈴木芳郎(二十八年卒・古川在住)でこの六月六日発表。二十歳から六十五歳までの一〇〇名の園児、小躍りしてよろこぶ。角田市に古高コンビ参上。好評。はぐくみ学園の皆さん幸多かれと東京より祈る。

暑中見舞い少々近況報告まで。
昭32卒 佐藤 公哉

第二の人生後初めて、ヨーロッパの旅をした。百聞は一見にしかず

で、自然と歴史に圧倒され、視野の拡がった感じもした。しかし、「日本にもよいところがあるぞ」と思い直し、日本国中を旅したくなりました。一病息災で頑張っています。

昭29卒 佐藤 廣

山は日本百名山だけではない。野の花をめで、富士を眺める山も。野山歩きに興味のある方、有志の集いをお待ちしよう。

昭37卒 千坂 孝夫

古高同窓会のご縁で野球部OB会をやったり、同期生との交流をはかったり恩師の叙勲の会に参加したり、二次会をやったり、一関・仙台などでゴルフをやったり、若手?の集まりをやったり楽しい楽しい日を過ごしております。すべて在京古高同窓会のオ・カ・ゲです。

昭37卒 中鉢 泰平

南米のパラグアイ共和国との友好親善組織、社団法人パラグアイ協会の専務理事をしております。年に一回のペースで訪問しているのですが、丁度三、四十年のタイムトンネルをくぐった思いをする何か郷愁をさそう牧歌的な国です。

パラグアイ国には、我々が失いかけたものがまだまだ散在しています。大事にしたいこれからの国

ではあります。興味のある方はいつでもご連絡下さい。いつも同窓の方々がみえています。

電話 (五二五六一五五二二) 昭38卒 渡辺 将郎

次回会報第24号は
2000年1月1日発行!

思いつく、人生、想うこと、知ってもらいたいこと、同窓会への提言等自由な内容での寄稿をお願いします。

送付先は、同窓会事務局です。又、企業広告(大二万、小一万円)、個人広告(二千元)も受付けております。作成費は広告料収入は広報委員会の理想。次回発行日のお知らせで、誌面の充実をめざしております。

会員の皆様のご協力をお願いいたします。(広報委員会)

「よくわかる環境問題」 発刊

定価1600円

出版社 (株) オフィストゥーワン
TEL 03-3988-3911

税理士 渡辺 三男 (昭和18年卒)

〒123 東京都足立区西新井本町1-16-12-510
-0845 TEL 03-3896-2707
FAX 03-3896-2284

皆様のお力をお貸しください!

- 企業誘致 ●地場産品販路拡大 ●ネットワーク強化 ●情報受信

古川市東京事務所

所長 佐藤 吉昭 (S40卒)
副所長 藤本 重吉 (S50卒)
主事 熊谷 賢一

台東区上野1-18-11 西楽堂ビル4F (上野松坂屋南館向き)
TEL. 5818-6432 FAX 5818-6431

ケーヨーは情報化時代の未来を拓くパートナーです。
文書・図画・写真・音声・映像を簡単にC.D-R.O.M.にします。

- データベースの入出力・活用 デジタル変換
- コピーサービス 総合印刷 CAD入出力
- 文字情報入出力 プリペイドカード

KEEP YOUR NEEDS データベース作成支援 完成図書・総合複写/印刷
株式会社 ケーヨー

代表取締役社長 早坂 清吉 (昭・29年卒)

本社 〒103 東京都中央区日本橋本町4-1-6 TEL03-3242-0191
横浜支店・千葉支店・八重洲営業所

よくわかる環境問題

地球の未来のために何ができるか

全情報

最新版

渡辺三男 著



美しい時代へ——東急グループ



株式会社 東急レクリエーション

取締役社長 佐藤 進
(昭和26年卒業)



港北とうきゅうS.C./109シネマズ港北

東京都渋谷区桜丘町2番9号
☎03(3462)8855

森谷建設株式会社

代表取締役 森谷 侑一
昭和20年卒

〒336-0923 埼玉県浦和市大字大間木2395
TEL 048-874-2910

日曜大工園芸用品卸 貸ビル、貸マンション業

株式会社 佐々木商事

代表取締役 佐々木 光一路

〒144 東京都大田区南蒲田1-1-21 佐々木ビル-0035 第一京浜国道沿い京急蒲田駅前
卸売部 電話 (3739) 2468
FAX (3739) 7234
不動産部 貸ビル・貸マンション
HOT Line 090 32026393



(株) インターナショナル ヒューマン トラベル

〒164-0001 東京都中野区中野2-29-15-204
TEL・FAX 03-5385-3693 携帯電話 090-851-58033

代表取締役社長 中鉢 泰平 昭和37年卒業

下記のような専門的なプログラムを30年ほど手がけて参りました。
ご用命の節はお気軽にご連絡ください。

◆異文化社会における多様な学習プログラム

- *カナダCWES・ホームステイ・プログラム (小学生から社会人まで対象)
～実際に自然や生活を体験しながら、楽しく英語センスを養い、力をつける～
- *ドイツ・カナダ・ニュージーランドにおける
福祉施設ボランティア体験学習
- *大学間、養成機関との交流・学習プログラム (学生対象)
- *アメリカ、カナダのカレッジ・プログラム (学生対象)

◆国際会議・学会、国際見本市参加等にかかわるお手伝い

- *モンテッソーリ世界大会、ベスタロッツ生誕250周年記念大会、国際教育史学会、UNIMA世界人形劇大会、WCCI世界カリキュラム協議会

◆世界の文化・芸術(音楽/演劇/博物館/衣食住文化/絵画・彫刻・陶芸)などへのご案内も手がけて参りました

連絡先

国内/東北・関西・中部・九州・北海道
諸外国/EU諸国・北米・ロシア・豪州・南米
アフリカ・東南アジア・ハワイ

◆21世紀のための生涯学習プログラム

- *フレーベル・モンテッソーリ・シュタイナー・ダルクローズ
フレネ・ニール・ドクロリー・コダーイ・ルソーなど世界の教育、保育、障害児、福祉に影響を与えた理論・実践に学ぶ研修プログラム
- *アメリカの幼稚園教育のルーツを訪ねる
～シュルツ・ビーボディ・デューイ～
- *世界各国の環境教育・多文化教育・情報教育の実践を学ぶ研修プログラム
- *世界各国の長寿社会・生涯学習・福祉コミュニティづくりに学ぶプログラム
～オランダ・スウェーデン・イギリス・カナダ・ニュージーランド・アジアなど～
- *児童文化・世界への旅
～赤毛のアン アンデルセン グリム童話 トム・ソーヤの冒険 フランダースの犬 アルプスの少女ハイジ カリジェ 大草原の小さな家 ムーミン 木を植えた男 ピーターラビット 若草物語など～

Century21ハウジングセンターは、世界30ヶ国 6,500店中のCentury21グループの中で世界総合第1位・日本総合第1位に輝きました。(1998年度)



「グランドステージ江川」

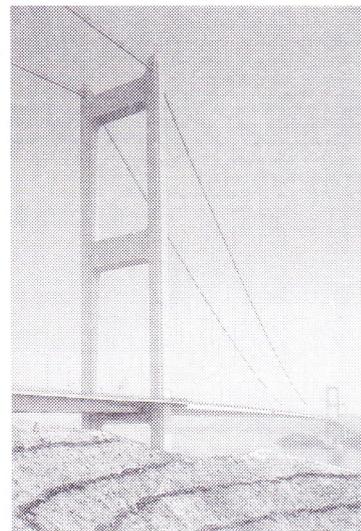
Century 21
HOUSING CENTER

[1995年度] 世界総合第2位・日本総合第1位
[1997年度] 世界総合第2位・日本総合第1位
[1998年度] 世界総合第1位・日本総合第1位
計一級建築士事務所東京都知事登録第42734号
設置・東京都知事許可(特-9)第107899号
宅建業・東京都知事免許(特)第41620号
社団法人住宅産業開発協会会員
古高47年卒 代表取締役 小嶋 進

100m²マンションリーディング企業

ハウジングセンター

株式会社ハウジングセンター
〒154-0005 東京都世田谷区三宿1-13-4
☎03-5430-0021
センチュリー21の加盟店はすべて独立・自営です。



采島海峡大橋 (第2橋 当社施工区間)

技術と品質で21世紀に飛翔する



株式会社 **宮地鐵工所**

代表取締役会長 遠山 仁一 (S.25卒)
東京都中央区日本橋小伝馬町15番18号

経営経理指導 社会保険 労務管理
決算記帳代行 会社設立 許可認可申請

経営コンサルタント、社会保険労務士

青沼事務所

青沼 行雄 (昭和19年卒)
相模原市麻溝台2丁目6番30号
電話 042-744-0770
携帯電話 090-8686-9140
FAX 042-749-7230

税理士 青沼康男
不動産鑑定士

(昭和19年卒)

〒108 東京都港区芝4-6-16 ライオンズ三田805-0014
TEL 03-3452-2004
FAX 03-5476-8006

“人と企業の絆を求めて!!”

パルスタッフ株式会社

代表取締役 渡邊道雄
会長
S28年卒 (鹿島台町)

本社 東京都杉並区高円寺北1-4-10
TEL 03-5343-5821

立川営業所 (0425-28-8585) 神奈川営業所 (0462-77-0791) 郡山営業所 (0249-21-0990)

自由 + 自民 + 公明 = 古高同窓会 (数合わせ)

積水工業株式会社

空調・衛生・電気工事

S28卒 取締役会長 金子 康

本社 目黒 (03)3793-5711 仙台支店 (022)235-7009

佐藤 啓三

(S40年卒 中新田)

中小企業診断士・ISO審査員・エネルギー管理士

KGK

ISO (品質・環境)・技術・経営
コンサルティング・グループ
株式会社 経営技術機構 所属

〒221 横浜市神奈川区新浦島町1-1-25 テクノエイブ 100-11階
-0031 TEL 045-451-2561 FAX 045-451-2490
自宅 〒241-0004 横浜市旭区中白根2-22-19
TEL/FAX 045-953-3894

くすり、健康食品のご相談は
ぜひ当店へ!

有限会社 筑波薬品

代表取締役社長 萩沢法雄 (昭和31年卒)

〒202-0022 東京都保谷市柳沢3-2-45
TEL & FAX 0424-61-9334

軽いウォーキング

— 魅惑の庭園めぐり —

“江戸・東京を
見て歩こう会”
第2弾!!

- 主 催：在京古高同窓会
- 企 画：事業委員長 佐藤 公哉 (32年卒)
- 立 案：フジ会計事務所会長 渡辺 三男 (18年卒)

日 時：10月3日(日) 9時30分
 集合場所：JR上中里駅 (京浜東北線) 改札口前
 (改札口は一つしかありません)
 所要時間：約3時間(全行程 徒歩約6,700歩)
 参加費：2000円(入園料・昼食代含む)

◎コース

JR「上中里駅」

(5-6分)

旧古河庭園

(10-12分)

大正六年、古河市兵衛が造園した庭園。和洋両形式の庭園。

六義園 庭園

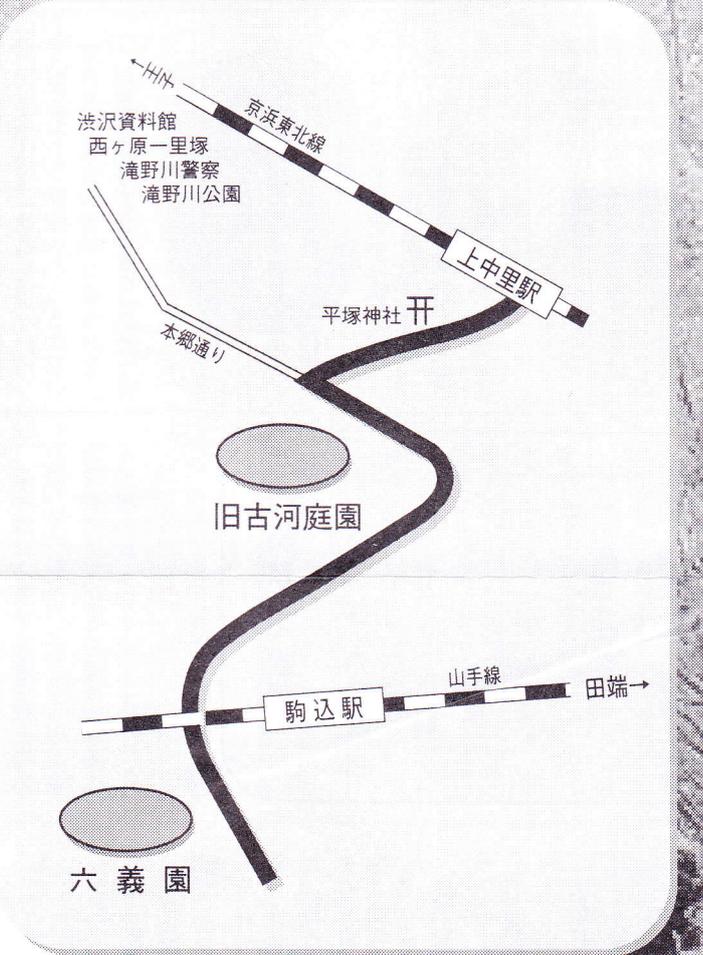
(5-6分)

元禄15年、柳沢吉保の設計 將軍綱吉を招待した庭園で有名。

JR「駒込駅」前

小松庵

食事会



- ☆ 出欠は・・・同封ハガキにてご返事下さい。
- ☆ 小雨決行
- ☆ 入園料は、65才以上は無料です。証明できるものをご持参ください。
(その分、食事会の中味を豊富にできますのでご協力を・・・)

**奮って
ご参加を!**

